

第 2 回 県有施設・県出資団体等調査特別委員会資料

公の施設等について  
～個別施設の現状と課題、その対応方針～

(教育庁)

令和 5 年 8 月 30 日 (水)

○施設名 青少年教育施設（中央青年の家、白浜少年自然の家、さしま少年自然の家、里美野外活動センター）

1 現状

(1) 施設の概要

- 青少年教育施設は、青少年を対象とした研修事業や体験活動プログラムの提供、青少年の健全育成を推進する人材の育成をはじめ、学校や青少年団体等の利用に低廉な料金で供するために設置される社会教育施設であり、自然体験や宿泊体験などの場を提供する中心的な役割を担うとともに、青少年が社会の担い手となることを支援することが期待されている。
- 本県においては、昭和13年に1施設、昭和43年から57年にかけて5施設が設置された。  
（吾国山洗心館の廃止（H20年度末）及び西山研修所（H24年度末）の譲与により、現在は4施設を設置）

【4施設の概要】

施設名	中央青年の家	白浜少年自然の家	さしま少年自然の家	里美野外活動センター
所在地	土浦市	行方市	境町	常陸太田市
開設	昭和43年	昭和54年	昭和57年	昭和47年
経過年	55年	44年	41年	51年
指定管理者	(NPO) 日本スポーツ振興協会	(NPO) ひと・まちなつとわく	(公財) 茨城県教育財団	(一社) 茨城県キャンプ協会
宿泊定員	200人	320人	300人	640人 (キャンプ場600人含)
主な施設等	本館、研修館、体育館 研修館別館、野外炊飯場、 野外キャンプ場	管理棟、食堂棟、宿泊棟、 体育館、創作館、 いろりの家、野外炊飯場、 野外キャンプ場	管理棟、生活棟、工作館、 プラネリウム、天体観測室、 野外炊飯場、 野外キャンプ場	メイン施設、 第1～3キャンプ場、 野外調理場
利用料金	宿泊 1泊 190円 (小中学生)、930円 (一般) ※食事代、シーツ代等は別途 日帰り 1人 30円 (小中学生)、190円 (一般)			

- 中央青年の家・白浜少年自然の家・さしま少年自然の家は、主に学校の宿泊学習に利用され、学習指導要領に示されている集団宿泊活動による人間形成に寄与している。
- 里美野外活動センターは、自然を十分に味わうことのできる環境を有し、低廉な利用料金で安心して利用できる施設として、レジャー目的のキャンプ利用のほか、子ども会やボーイスカウト、中学校や高等学校が野外体験活動の場として利用している。

(2) 施設の利用状況

- 4施設の宿泊利用者数（H30年度：コロナ禍前）は約7万人であり、ピーク時（S60年度）の約12万人から4割以上減少。また、各施設の稼働率（宿泊利用率）は、4割以下（中央37.5%、白浜19.0%、さしま33.7%、里美6.3%）。
- 主に宿泊学習に利用される、中央、白浜、さしまの3施設の利用者の割合は、学校の利用が52%と最も多く、次いで、子ども会などの少年団体が25%と、全体の8割近くが児童・生徒の利用である。
- 中央、さしまは企業研修に利用されることも多いため、白浜に比べてその他（青年団体※3等）の割合が高い。
- 里美は少年団体と一般利用が大半であり、学校利用は1割未満と低い。

【宿泊利用者数の推移】

(単位：人)

年度	S60 (利用ピーク時)	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
4施設合計	121,945	77,222	77,582	71,060	72,894	71,880	67,009	4,274	11,991	38,384
(S60年対比)	—	△36.7%	△36.4%	△41.7%	△40.2%	△41.1%	△45.0%	△96.5%	△90.2%	△68.5%
中央青年の家	25,305	17,376	19,099	18,455	19,178	18,757	17,968	507	2,710	7,094
白浜少年自然の家	41,481	22,120	19,867	18,973	20,091	18,977	16,969	57	2,825	9,705
さしま少年自然の家	47,484	29,912	29,549	26,222	26,601	27,282	26,768	2,020	4,917	19,299
里美野外活動センター	7,675	7,814	9,067	7,410	7,024	6,864	5,304	1,690	1,539	2,286
年少人口数	627,512	378,951	373,521	361,983	356,384	350,978	344,143	337,759	330,398	323,590

【各施設の宿泊利用割合、稼働率（宿泊利用率）（H30年度）】

	利用割合 (%)			稼働率※4 (%)		
	学校 ※1	少年団体 ※2	その他 (青年団体等) ※3	繁忙期	左記以外	年間
				(4～11月)	(12～3月)	
中央青年の家	51.4	18.6	30.0	45.8	15.4	37.5
白浜少年自然の家	59.0	30.3	10.7	25.3	8.5	19.0
さしま少年自然の家	47.8	26.5	25.7	42.5	13.7	33.7
3施設計	52.1	25.3	22.6	36.2	11.8	28.2
里美野外活動センター	8.8	51.5	39.7	6.3	—	6.3

※1 宿泊学習での利用

※2 子ども会、スポーツ少年団、ボーイスカウト等

※3 大学生、高校生グループ等

※4 宿泊定員に対する宿泊利用の割合  
(宿泊利用者数÷宿泊可能人数)

### (3) 学校の宿泊学習における県立青少年教育施設の利用状況

○ 県立青少年教育施設の利用校数は、小学校が全体の7割近いのに対し、中学校では全体の5%弱と低い状況にある。これは、中学生になると学習内容や行動範囲が拡大され、特に、本県ではスキー体験学習を実施できないことなどから、その場を県外に求めているためである。

【体験活動実施状況アンケート調査 (R5.7月) より】 対象：県内公立学校全校（小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校）

問：宿泊学習の実施場所は？

区分	施設名	小学校			中学校			県立・義務教育学校			学校合計			想定宿泊利用者数※
		校数	割合	割合	校数	割合	割合	校数	割合	割合	校数	割合	割合	
県立	中央青年の家	41	9.8%	67.0%	2	1.1%	3.8%	4	14.3%	64.3%	47	7.5%	48.5%	7,708
	白浜少年自然の家	93	22.2%		4	2.2%		9	32.1%		106	16.9%		7,346
	さしま少年自然の家	146	34.9%		1	0.5%		5	17.9%		152	24.2%		9,926
	里美野外活動センター	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0
県内施設 (県立以外)	西山研修所 水戸少年自然の家 あすなろの里 など	131		31.3%	12		6.6%	2		7.1%	145		23.1%	
県外施設	旅館・ホテル(主にスキー) 国立青少年教育施設 など	7		1.7%	164		89.6%	8		28.6%	179		28.5%	
合計		418			183			28			629			24,980

※ H30年度における施設ごとの1校当たり平均宿泊利用者数を基に想定宿泊利用者数を算出（概算による参考値）↑

（中央：7,874人÷48校＝164.0人 白浜：9,430人÷136校＝69.3人 さしま：10,580人÷162校＝65.3人）

中央青年の家は、県南地域の規模の大きい学校の利用が多く、利用者数は白浜・さしまと大きな違いはない。

- 施設が提供するプログラムだけでなく、施設見学、社会科見学、探究活動、登山・海や川遊びなどの自然体験、スキー・スノーボード体験、農業体験、キャリア体験等、子どもたちの体験活動が多様化している。

【体験活動実施状況アンケート調査（R5.7月）より】

問：宿泊学習での活動内容は？（複数回答）

⇒小学校では、施設が提供するプログラム（オリエンテーリング、ウォークラリー等）を行う学校が多いが、中学校では、4割超が県内では実施できないスキー・スノーボード体験を行っている。

区分	小学校	中学校	県立・義務	合計
施設のプログラム	73.6%	20.1%	42.9%	54.8%
施設見学、社会科見学、探究活動	12.2%	11.1%	14.3%	12.0%
自然体験（登山、海・川遊び）	10.6%	14.0%	8.1%	11.5%
スキー・スノーボード体験	0.0%	44.4%	14.3%	14.9%
農業体験	0.5%	1.8%	0.0%	0.9%
語学研修（外国語体験活動など）	0.0%	0.0%	12.2%	0.7%
防災体験	0.5%	0.4%	0.0%	0.5%
キャリア体験	0.8%	6.1%	4.1%	2.6%
その他	1.8%	2.1%	4.1%	2.1%

<その他の内訳>

陶芸体験、林業体験、海岸清掃、文化伝統体験、市内散策班別研修、大学見学 等

#### (4) 管理運営コスト

- 令和4年度の施設運営に係る事業費は、4施設で年間約3.8億円であり、利用者数減少の一方で概ね横ばいで推移。
- 利用者一人あたりのコストについては、利用者数の減少により、全体として増加傾向にある。

#### 【施設運営に係る事業費（歳出）】

(単位：千円)

年度		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
中央	歳出	127,117	142,105	131,237	138,377	131,987	136,742	103,102	133,550	141,894
	指定管理料:a	103,533	101,980	103,628	106,519	105,486	106,457	101,763	130,219	129,891
	利用料収入	5,180	5,655	5,425	5,668	5,563	5,199	286	1,030	2,081
	利用者数(人):b	43,435	45,036	43,961	44,076	45,281	42,968	4,990	11,652	19,916
	一人あたりコスト(円):a/b	2,383	2,264	2,357	2,416	2,329	2,477	20,393	11,175	6,521
白浜	歳出	87,124	79,596	102,439	102,740	103,854	105,913	86,639	96,089	118,456
	指定管理料:a	83,861	81,968	105,403	105,513	105,823	105,554	105,521	105,421	105,233
	利用料収入	6,152	5,266	4,888	5,500	5,389	4,818	11	922	2,394
	利用者数(人):b	59,910	58,847	49,830	58,171	56,225	45,622	117※	11,567	23,473
	一人あたりコスト(円):a/b	1,399	1,392	2,115	1,813	1,882	2,313	901,888	9,113	4,483
さしま	歳出	96,198	88,289	85,850	92,652	92,132	93,685	89,377	88,741	94,330
	指定管理料:a	84,408	82,790	86,436	88,415	87,922	88,369	87,228	85,593	86,104
	利用料収入	7,762	7,540	6,461	6,834	7,125	6,737	623	1,365	5,277
	利用者数(人):b	85,060	82,784	74,365	74,023	72,516	72,715	13,514	21,420	47,599
	一人あたりコスト(円):a/b	992	1,000	1,162	1,194	1,212	1,215	6,454	3,995	1,808
里美	歳出	23,374	23,169	23,424	20,212	22,698	23,622	23,008	22,755	23,014
	指定管理料:a	23,969	23,229	22,490	21,751	21,751	22,687	22,687	22,687	22,687
	利用料収入	683	750	718	711	832	752	301	298	408
	利用者数(人):b	7,814	9,067	10,471	11,935	12,160	10,820	4,091	4,348	6,626
	一人あたりコスト(円):a/b	3,067	2,561	2,147	1,822	1,788	2,096	5,545	5,217	3,423
4施設合計(歳出)		333,813	333,159	342,950	353,981	350,671	359,962	302,126	341,135	377,694

※新型コロナウイルス感染者の受入れ施設に指定され、4月14日以降3月15日まで県の要請により休館したため

### (5) 青少年教育施設を取り巻く環境

- 全国的には青少年教育施設は減少傾向にある。(H17 (ピーク) : 1,320 施設 → R3 : 840 施設 (約4割減))

#### 【令和3年度社会教育調査中間報告より】

年度	H11	H14	H17	H20	H23	H27	H30	R3
青少年教育施設	1,263	1,305	1,320	1,129	1,048	941	891	840

#### 【近県の青少年教育施設の再編状況】

	検討・方針	結論・方向性
群馬県	県有施設のあり方見直し (R1)	妙義青少年自然の家の廃止 (R3) により3施設から2施設に
栃木県	青少年教育施設再編整備計画 (H29)	太平少年自然の家・芳賀青年の家の廃止とみかも自然の家の新設 (R6) により4施設から3施設に
千葉県	県立青少年教育施設の再編 (H30)	東金青少年自然の家の廃止 (R7) により5施設から4施設に

### (6) 議会からの提言等

- 財政再建等調査特別委員会 (H20) で、青少年教育施設については「少子化傾向を踏まえ必要定員を精査し、利用者1人あたりの経費などを参考に施設廃止など計画的に余剰定員の解消を図っていくべき」との提言を受け、これまで、吾国山洗心館の廃止 (H20年度末) や西山研修所の市への譲与 (H24年度末) を実施。
- 第16期茨城県生涯学習審議会 (R4) では、「今後の施設利用規模の推計に見合った適正な施設数と運営コストにするため、施設の統合・廃止は検討を要する課題である」との意見があったところ。

## 2 課題

- 年少人口の減少に伴い、施設利用者が減少。令和4年の出生数が国の将来推計より11年早く80万人を下回るなど、少子化が進む中、施設利用者はさらに減少することが想定される。

### 【茨城県人口等の推移】

(単位：人)

年度	S60	H17	R 2	R 7	R12	R17	R22	R27
県人口	2,725,005	2,975,167	2,867,009	2,750,204	2,638,185	2,512,144	2,376,146	2,235,686
年少人口※	627,512	422,913	337,759	303,436	279,345	256,755	239,318	222,074
S60 対比	-	△32.6%	△46.2%	△51.6%	△55.5%	△59.1%	△61.9%	△64.6%

(資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成30年推計))

※年少人口：0～14歳

### 【茨城県の児童・生徒数の推移】

(単位：人)

年度	S60	H17	R 2	R 4
小学校	268,529	173,733	138,384	132,120
中学校	141,047	90,245	72,436	70,780
中等教育学校 (前期課程)	—	—	1,358	1,772
義務教育学校	—	—	7,808	10,471
計	409,576	263,978	219,986	215,143
S60 対比	-	△35.5%	△46.3%	△47.5%

(資料：令和4年度茨城の学校統計(年次統計))



- 年間の運営経費（指定管理料、工事費）に約 3.8 億円を要しているほか、各施設とも設置後 40 年から 50 年以上を経過し、経年劣化により機能が低下した建物の改修や電気設備等の更新など、今後も老朽化の進行による工事費の増加が想定される。

**【過去 10 年間の大規模修繕（10,000 千円以上の修繕費）】** (単位：千円)

施設	工事費	工事内容
中央青年の家	38,977	給水設備改修、研修室空調設置、本館耐震工事等
白浜少年自然の家	295,607	体育館耐震補強、創作室天井屋根改修等
さしま少年自然の家	190,372	屋上防水、管理棟耐震補強等
里美野外活動センター	-	
計	524,956	

**【今後 10 年間で必要な工事】※長期保全計画上の改修費用** (単位：千円)

施設	工事費	工事内容
中央青年の家	47,000	エレベーター更新、高圧受変電機器更新等
白浜少年自然の家	116,000	管理棟・体育館屋根改修、空調設備更新等
さしま少年自然の家	198,000	外壁塗装、給排水管改修、非常用発電装置更新等
里美野外活動センター	141,000	屋根・外壁塗装、照明設備等更新等
計	502,000	

- 県立青少年教育施設は、昭和 40 から 50 年代に設置されたが、その他、市町村立施設や廃校を活用した宿泊施設の設置、民泊による宿泊体験など、県内における多様な宿泊環境が整備されている。

**【県内の宿泊体験可能施設】**

公立宿泊施設（設置年：宿泊定員）	民泊による宿泊体験
マウントあかね（H12:72）、日立市会瀬青年の家（S60:70）、 西山研修所（S29:228）、御前山青少年旅行村（S46:200）、 いこいの郷常総（H24:66）、筑波ふれあいの里（H1:80）、 豊里ゆかりの森（S60:60）、水海道あすなろの里（S54:220）、 水戸市少年自然の家（S50:223）※H29 リニューアル とちぎ海浜自然の家（銚田市）（H4:400）※H31～栃木県民以外も利用可	常陸太田・いばらきグリーンツーリズム 茨城町・ひろうら田舎暮らし体験推進協議会 笠間ふれあい体験旅行推進協議会
廃校活用（設置年：宿泊定員）	その他
たかはら自然塾（H21:80）、かなさ笑楽校（R2:84）、 日立市かみすわ山荘（H2:50）	県内キャンプ場 163 施設（R1 年時点） ※「体育・スポーツ施設現況調査（スポーツ庁）」

**【隣接県等の国公立の宿泊体験施設（設置年：宿泊定員）】**

福島県	県立いわき海浜自然の家（H8:300）、国立磐梯青少年交流の家（S45:400）、 国立那須甲子青少年自然の家（S51:400）
群馬県	国立赤城青少年交流の家（S45:400）
栃木県	県立芳賀青年の家（S52:150）、県立太平少年自然の家（S51:120）、 県立なす高原自然の家（H16:189）
千葉県	県立水郷小見川青少年自然の家（H9:220）、県立手賀の丘青少年自然の家（H5:300）

### 3 対応方針

- 少子化や社会情勢の変化、議会からの提言を踏まえ、時代に応じた施設の適正規模・機能とするため、利用実態に見合った施設規模に再編。
- 主に宿泊学習に利用される3施設（中央・白浜・さしま）については、利用者や施設の状況、地理的環境等を考慮し、宿泊利用者が最も多いさしま少年自然の家及び県内各方面からのアクセスが容易な中央青年の家の2施設に再編。
- 白浜少年自然の家及び主にキャンプ場として一般の方に利用される里美野外活動センターは、県立青少年教育施設としては廃止し、引き続き地域の賑わいに寄与できるよう、地元市・関係機関等と協議しながら、民間譲渡等を検討。
- 民間への有償譲渡については、プロポーザル方式による公募を実施予定。

### 4 周辺への影響とその対応

#### (1) 白浜少年自然の家

- 今年度の利用予定者の住所地を勘案し、中央・さしまにおいてそれぞれコロナ禍前の平成30年度の稼働状況で受入れ可能か試算したところ、受入れが十分に可能であった。

#### 【白浜少年自然の家を廃止した場合の受入想定】

##### <中央青年の家>

(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
H30 宿泊稼働率※1	30.9	37.4	32.3	48.2	39.1	69.7	61.1	44.7
R5 白浜利用者※2 を加えた宿泊稼働率	35.8	40.0	40.3	50.5	39.1	82.0	81.5	61.6

##### <さしま少年自然の家>

(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
H30 宿泊稼働率※1	36.0	33.5	48.9	56.7	50.4	36.6	47.0	28.5
R5 白浜利用者※2 を加えた宿泊稼働率	42.5	45.4	76.9	83.7	70.0	63.9	68.0	46.6

※1 宿泊定員に対する宿泊利用の割合（宿泊利用者数÷宿泊可能人数）

※2 R5年7月時点の予約状況に基づく

左表は、H30年度の中央・さしまの宿泊実績に、白浜の宿泊予約者数（R5年7月時点）を各月ごとに振分けて稼働率を試算したものの。

## (2) 里美野外活動センター

- 現在の利用者については、民間譲渡後の里美野外活動センターでの受入れを想定。

### 【民間譲渡後の里美野外活動センターについて】

譲渡先には、施設の有用性を理解した企業・団体等を想定。更なる地域の活性化に期待。

## (3) 利用者等への周知及び支援

- 青少年教育関係団体や市町村教育委員会に対し、再編方針について伝えるとともに、各団体や学校における利用計画の見直し等、再編に伴う対応についてご理解、ご協力をいただきたい旨、6月16日付けで通知。また、白浜少年自然の家について特に利用の多い鹿行地域の市教育委員会に対し、個別に説明を行い、ご理解をいただいている。
- 再編にあたり、各団体や学校における利用計画の見直しが円滑に進むよう、他の2施設と連携するとともに、県内・近県の類似施設等、情報提供等の支援を行う。

## 5 今後の予定

- 現在の指定管理期間が満了する令和5年度末の再編を内容とする条例改正等関連議案を、年内を目途に議会に上程予定。
- 条例改正後、民間への有償譲渡に係る公募をプロポーザル方式により実施予定。